

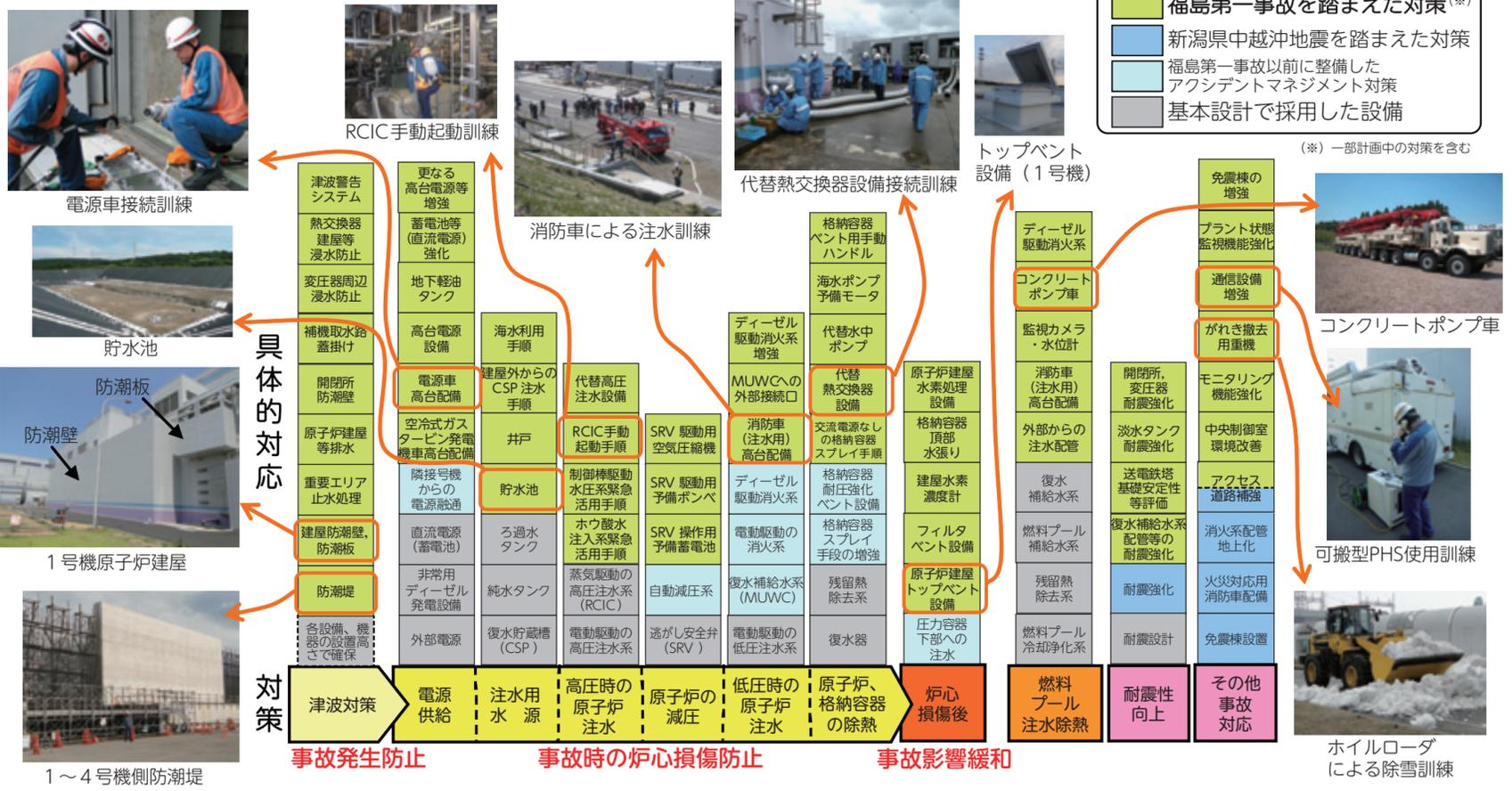
9月20日に柏崎市、21日に刈羽村で福島第一原子力発電所事故の経過と教訓および柏崎刈羽原子力発電所の安全対策の実施状況についてご説明いたしました。その際のご説明内容の一部をご紹介します。

9月20日柏崎会場



柏崎刈羽原子力発電所の安全対策（設備関連）

原子力事故の教訓から学んだ課題に対して設備面の対策を実施しています。



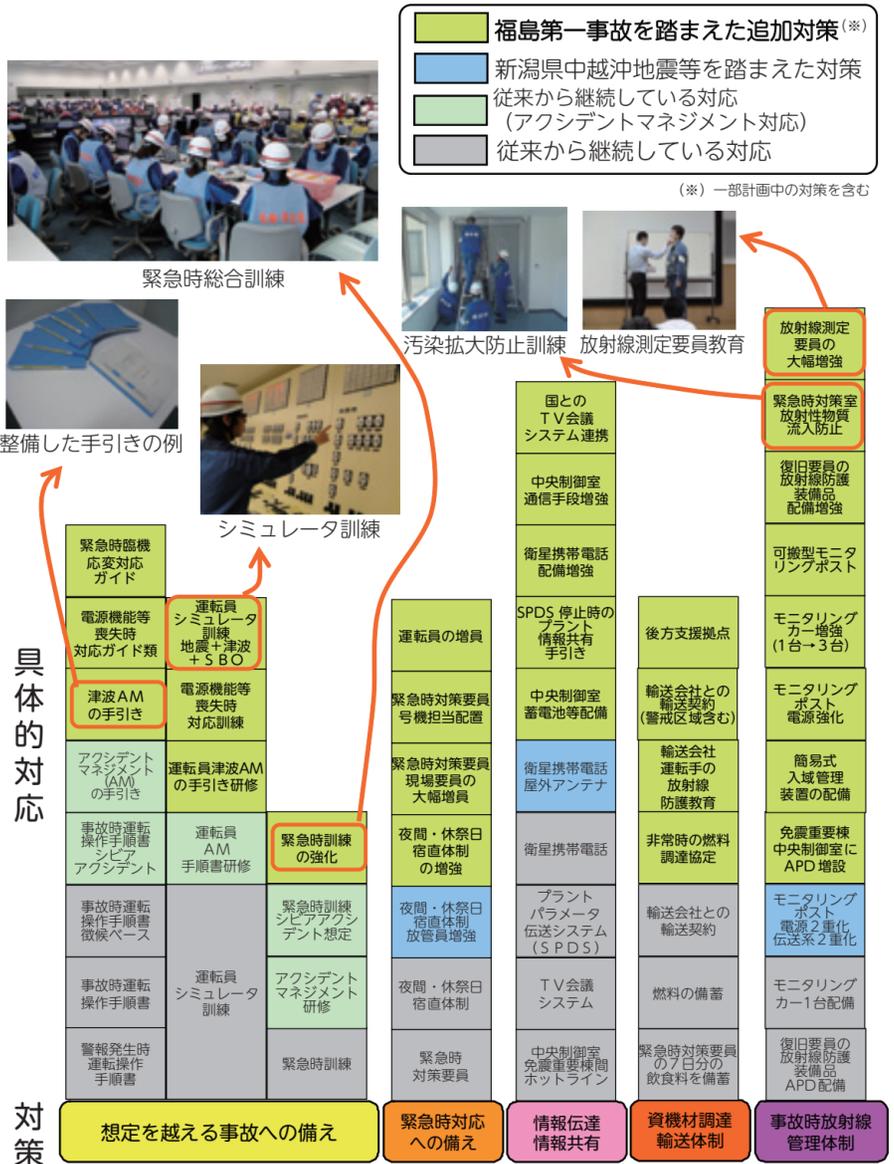
地域とともに
東京電力
TEPCO
柏崎刈羽原子力発電所

2012年10月14日発行 (H24-I-6)
編集発行責任者：柏崎刈羽原子力発電所 広報部企画広報グループマネージャー
TEL 0120-120-448(無料) 月～金曜日 午前9時～午後5時

福島第一原子力発電所の事故発生以来、地域の皆さまに大変なご心配とご迷惑をおかけしており、改めて心よりお詫び申し上げます。

柏崎刈羽原子力発電所の安全対策（運用関連）

原子力事故の教訓から学んだ課題に対して運用面の対策を実施しています。



9月21日刈羽会場



左：相澤副社長 右：横村発電所長

主な質疑応答

- Q. 福島事故の原因に地震の影響を排除すべきでない。**
- A. 当社は、炉心損傷の主な原因は津波による電源喪失だと考えていますが、地震についても決して影響を否定するような考えはもっておりません。また、地震対策を全くなくしていいと考えているわけでもありません。今後、柏崎刈羽原子力発電所の外部電源などの耐震性向上も実施してまいります。
- Q. 発電所周辺の活断層調査をしっかりとすすめて欲しい。**
- A. 中越沖地震後から継続して調査研究を進めていますが、今回の地震後にも新たな知見が出てきたのでそれらを踏まえて慎重に評価を進めていきたいと思っています。
- Q. 夏場の電力需要の想定は過大だったのではないかと？**
- A. 今夏は安定供給を確保できたものの、震災以降、経年火力の高稼働や高需要期における緊急設置電源の運転、更には夏期に向けた定期点検の延伸等により、既存の火力電源で精一杯の努力で供給力を捻出しています。火力発電の設備は通常約40年が寿命ですが、それ以上も運転したのもフル回転で運転しており、計画外停止のリスクがある中で、万全な供給体制とは言い難い状況が続いています。
- Q. 東京電力は再生可能エネルギーをすすめるべき。**
- A. CO₂を出さず、燃料費もかからず、燃料自給率向上にも役立つ再生可能エネルギーについては、当社としても努力してまいりたい所存です。
- Q. スイスではフィルターベントに薬品を使っているようなので、東京電力も検討すべき。**
- A. 柏崎刈羽原子力発電所に設置予定のフィルターベント設備でもヨウ素などを吸収する効果のある薬液を使うことを考えており、最も効果的な薬液を選定中です。

説明資料、質疑の状況などは発電所ホームページで公開しています。
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/info/tohoku/setsumei-j.html>